

(別紙)

「(仮称) 日之影町風力発電事業」の環境影響評価方法書に対する 環境の保全の見地からの意見

1 総括的事項

- (1) 風力発電設備の設置、工事用道路の敷設及び拡幅、土地の改変箇所等の決定など、事業計画の具体化に当たっては、文献や専門家の助言等に基づき、国内外における最新の知見及び評価手法を採用しながら環境保全措置を検討すること。
- (2) 計画段階環境配慮書に対して令和2年2月10日付け祖傾大ユ推号外で提出された、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会からの意見を、今後の事業計画に適切に反映させるとともに、同協議会等の関係機関や地元自治体と適宜協議を行うこと。
- (3) 下記2の個別的事項について、環境影響を回避又は十分に低減できない場合は、事業実施区域の変更や事業の中止も含めて計画の見直しを検討すること。

2 個別的事項

- (1) 騒音等について
 - ア 対象事業実施区域周辺には、配慮が特に必要な施設、住宅等が点在しており、工事の実施及び施設の稼働に伴う騒音等（騒音、振動及び低周波音（超低周波音を含む。）をいう。以下同じ。）による生活環境への影響が懸念される。
工事用資材の輸送及び供用時の騒音等が住民の生活環境に重大な影響を及ぼすことのないよう、調査地点を再度検討し、評価結果に基づく必要な環境保全措置を講じること。
イ 工事関係車両の主要な走行ルートにおいては、平常時と比較して、交通量の増加並びに騒音及び振動の影響が特に大きいと考えられるため、走行ルート周辺の住宅地等においては時間帯を考慮した調査を行うこと。
- (2) 水環境について
 - ア 濁水による影響については、工事の実施に伴う裸地の創出を想定した上で、調査、予測及び評価を行うこと。
 - イ 風力発電機の設置予定範囲北西部に水道用水取水地点（表流水）が存在しているが、工事の実施に伴う表流水の水量不足及び濁水の影響が発生しないよう、対策を検討すること。
- (3) 地形・地質について
 - ア 対象事業実施区域周辺には石灰岩の地層が存在しており、その付近には希少な動物が生息していると考えられるため、対象事業実施区域内においても石灰岩の露頭の有無について調査を行うこと。
 - イ 対象事業実施区域において、地滑り地形、土砂災害危険箇所及び山地災害危険地区が存在しているため、土地の改変等により土砂災害が発生しないようにすること。

(4) 動植物・生態系について

- ア コウモリ類の調査、予測及び評価の手法については、計画段階環境配慮書に対する住民等の意見も十分に参考にすること。
- また、コウモリ類の捕獲調査で夜行性鳥類が捕獲された際には、記録を行うこと。
- イ 鳥類及びコウモリ類は、樹林から飛び立って移動を始める際に風車の最大の高さよりも低く飛翔することが多く、バードストライク及びバッドストライクを引き起こしやすいと考えられるため、これについて対策を検討すること。
- ウ 渡り鳥の調査ルートについては、猛禽類及び重要種に限らず全ての種を対象として、夜行性鳥類（昼行性でもある種を含む。）についても調査を行うこと。
- エ 鳥類に関する調査で巣が確認された際には、確認地点、周辺環境、営巣木等の記録を行うとともに、鳥が目視できた際には可能な限り齢（成鳥・幼鳥）の記録もを行うこと。
- オ 工事の実施に伴う濁水の流下が懸念されるため、渓流部等に生育生息する動植物についても調査を行うこと。
- カ 生息数の減少が報告されているカモシカが、対象事業実施区域周辺において確認されている。
- ニ ホンジカの侵入によりその生息を脅かす要因になると考えられるため、それぞれの生息確認の調査を行うこと。
- キ 河川支流のカワネズミについて、フィールドサイン、捕獲調査及び種の特定のためのDNA分析を行うこと。
- 捕獲調査の際には、捕獲後は速やかに各部の計測等を行い、終了後は可能な限り早く放猟すること。
- また、種の特定に当たっては、イタチ類も同様に実施すること。
- ク ヤマネ、モモンガ、ムササビ等の飛翔性哺乳類については、巣箱を使用した調査を行うこと。
- ケ 植物相及び植生の調査の際には、カラ類の餌となる果実を付ける樹木について、結実状況の調査及び記録を行うこと。
- コ 「速日ノ峰鳥獣保護区」及び特定植物群落として指定されている「北方町大山神社のカシ林」は、対象事業実施区域周辺における生物多様性が高い区域と考えられるため、動植物及び生態系に対する影響の調査を行うこと。
- サ 風車の設置予定範囲に沿って森林が細長く連続的に伐採される予想となっており、森林が分断されることで、台風時の風倒被害、土砂の流出、動物の移動経路の遮断及び阻害等の影響が考えられるので、これらの対策を検討すること。

(5) 廃棄物について

- 伐採木や残土については、周辺環境への影響が生じないよう、それぞれの処理方法も考慮すること。